



聖書:マタイの福音書7章24-29節/マタイの福音書7:21

説教者; 牧師 鄭南哲
(Rev. Jung Nam-Chul)

世界で高層ビルの代表的なところとしてニューヨークのマンハッタンが有名です。ラジオシティビルをはじめクライスラービルやテロを受けていてワールドトレードセンターやエンパイア・ステートビルなどの超高層ビルがここに群がっています。

マンハッタン島だと言われているこの小さい地域にこのような巨大な高層ビルが立てあげられた一番の大切な理由はその地盤(じばん)が巨大な岩石(がんせき)で作られた地層(ちそう)だからであることはよく知られている事実です。建物はきちんとそれに高く立てようとするほど基礎がどれほど大切なのでしょう。

イエス様は今日の本文の御言葉をとおしてこの基礎の大切さについて強調するために二人が立てた家のたとえ話をされています。一つの家は砂の上に建てられ、もう一つは岩の上に建てられました。砂の上に家を建てた人をイエス様は愚かな人だと言われ、岩の上に家を建てた人を賢い人だと言われました。

今日の本文は有名な山上の教えの結論のところとす。そういうわけで本文の始めである24節をみると、“だから”で始まっています。これは結論だという意味です。この結論でイエス様は弟子たちに真の弟子になるためには何よりも信仰生活の基礎が大切であることを強調しようとおわれたのです。基礎がなぜ大切でしょうか。今日我々はイエス様が例えられたこの二つの家の共通点と違いに目を留めたいと思います。まず、二つの家の共通点について考えたいと思います。

〈砂の上の家と岩の上の家の共通点〉

始めの共通点は二人とも家を建てる必要を認識していました。つまり、二人とも信仰生活の必要を知っていたと言えます。

イエス様はここで信仰生活をなぜ家を建てる過程に例えたのでしょうか。家というのは贅沢な物ではなく必需品です。生きるためにはなければならぬものです。ところが、今日多くの人々や教会の中でさえも信仰の生活をただ趣味ぐらいでしか考えてない傾向が相当あります。今日の自分のスケジュールがないから教会に行ってみようかなとか、やっぱ教会の礼拝に行かないより参加してから ゴルフをやり、よくボールが当たるし、成績が良かったからまた行こうかとかのような考え方を 教会に通っている人も意外と多くあると思います。

しかし、イエスキリストは信仰の必要についてほぼ生存次元(じげん)として強調し、教えて下さいました。

もっと広く考えて見ると、人間に宗教の必要も同じではないでしょうか。

ルイスバルコフ(Louis Verkhof)と有名な神学者はこのような名言を残しました。

“人間は治療不可能な宗教的存在だ！つまり、人に死が存在している限り宗教はいつまでも順類と共に存在するだろう。さらには無神論者(神の存在を否定し、信じない人たち)たちにも神の必要性、宗教の必要性を心の中で消すことができない絶対的な郷愁(きょうしゅう)のように存在するのだ。”

このような面白い実話の話があります。アメリカの無心論教会会長を勤めたマドリンマリオヘアと言う女性の無神論者哲学者がいました。彼女は数年前アメリカ公立学校では公に神様に祈ることができないようにキリスト教に対して反対し、祈り禁止運動をおこした人物です。そして、この問題を社会でもっと公にするため法廷にまで持って行きました。みんな彼女が負けるだろうと思ったら、シカゴ裁判所で彼女が勝訴(しょうそ)しました。最後の判決が下った時、彼女もまさか勝てるとは思わなかったので、勝利に興奮して大喜びながら叫びました。“オーマイゴッド(Oh, My God!)”だと。それが記者たちの間人口(じんこう)に膾炙(かいしゃ:うわさ)になって、当時このようにニュースに報道されたそうです。

“無神論者が勝利の祝いを神様にささげたのだ！”

カルユン(Carl Gustav Jung)というスイスの心理学者はこのように言いました。“人々が持っている色々な意識の中で一番強烈な意識が神に対する意識である。そして、それは無神論者の心の中にでもっている。”

無神論者たちは神という存在は決してないと証明しようと長い歳月を費やします。それを何とか証明しようと神について熱心に勉強し、考えているうちに真の神様を信じるようになる場合が多くあります。結局人間は神様から離れて、信仰から離れて生きることができないということがわかります。なぜでしょうか。もともと神様が人を創造された時、神のために、そして、御自身と人格的に交わるために造られたものだからです。なので、昔も今日も人たちは人間にあるその神様を信じようとする意識と心を利用して、数え切れないほどの様々な宗教を作り出したり、何かの物に特別に扱いをしながら拝もうとするのです。結局人は真の神様を探し求めています。神様への信仰は決して趣味的な、贅沢なものではなく、人が誠に幸いな人生を築き上げていくためには信仰は欠かせないものであることをまず覚えておきましょう。正しい信仰は人生の家を建てるためにはかならず必要な物であります。みなさんはその信仰を大事に生かし、用いているのでしょうか。

教の本文の中で二つ目の共通点は、各自二人によって二つの家が完成されたということです。

イエス様は二つの種類の人がいることを今日の本文では教えて下さっています。賢い人と愚かな人が完成した二つの家は表では家の形やスタイルが似てたように見えます。少なくとも外形的にはあんまり差がなかったように推測ができます。家の広さや見えるデザインも似てた可能性が高くあります。このようにざっと見ると愚かな人が建てた家も、賢い人が建てた家も両方とも

表では似てたということです。

これを通して考えられるのは、信仰の生活の時間が経てば、なんとかうわべに慣れてくる外的な形ができるようになります。ところが、そのようになれてきた形でも自分の信仰は完成されたように、自分の信仰はもう出来上がっているかのよう錯覚してしまう場合があるのではないのでしょうか。例え、キリスト教的に表現してみると、こうです。

まず、教会に通います。始めの時はあまりなれなかった礼拝の時もだんだん慣れて来ます。その後、なかなかなれなかった賛美もついて歌ってるうちになれてますます他の人たちのようにリズムに合わせて楽しく聖歌を歌うことができるようになります。その後、もっと時間が経つと、他の人たちのように祈ることを真似をすることができるようになり、他の人たちがする信仰の告白も真似をすることができるようになります。自分のとくいの奉仕も認められ、できるようにもなります。そのぐらいやったら、もう回りからは同じ教会のメンバーの一人として見なしてくれるようになり、まるで自分はこの程度で完璧にクリスチャンになって、もう自分にはイエスキリストを信じる信仰を持っていると思うようになり、回りからもそのように見なしてくれるようになります。

結局人はうわべですべてを評価しようとする傾向が強くなります。うわべの姿だけを見て周りの人たちも、そして自分さえも信仰っというものを判断してしまいます。しかし、私たちはそれに他の人も、そして、自分自身に対しても注意深く、気をつけなければなりません。

今日の本文にはイエス様がその面について指摘してくださっているのです。

今日の愚かな人と賢い人、この二人の家は外見上には何の差も見えなかったことを強調されています。

いくら、表では似てて、外見上では同じ形をやっているでもイエス様ははっきりと区別し、よく見極めて下さっていることがわかります。今日の本文に入る直前にイエス様はこう語って下さっています。

“わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行な者がはいるのです。”(マタイの福音書7:21)

主よ、主よと言う人たちが天国にはいるわけではないと断言におっしゃいました。

その後、22節のイエスのお言葉はもっと衝撃的です。

“その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。”

イエス様の御名によって病人の人が癒され、イエス様の御名によって預言者役もします。主の御名によって悪霊を追い出せる信仰の力を行なう姿までも見せました。けれども、ここでまた衝撃的な事実が出ています。イエスキリストはこのような人たちに向ってこのように厳しくおっしゃいました。23節を見て見ましょうか。

“しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』”

愚かな人が建てた家も、賢い人が建てた家も表ではわからなかったことを覚える必要があるでしょう。

もう賛美もできるし、祈りも、礼拝も自然にできるようになっているのに、教会のことに對して熱心な姿勢と奉仕も献身的にやって来たのにもかかわらず、イエスキリストの御前に立つ時、主からこう言われる可能性があることをいつも覚えておく必要があります。“不法をなす者ども。わたしから離れて行け。私はあなたがたを全然知らないのだ！”と。

人はだれでも自分の家を美しく建てようとして。そして、それぞれ自分なりに人生の家を建てて行っています。

しかし、すべての人生の家がうわべでは似てるようにいくら見えても、神様の御前では決してそうではないことを忘れてはいけません。建物の家を建てるための時でさえ、設計図がいるのに、美しく丈夫な家を建てるためにも自分勝手ではなく、かならず正しい設計図が必要です。その設計図は人をお造りになり、それぞれ生ける人生を与え、人生の家を建てるようにその機会を許して下さった真の神を信じる者たちのみが可能なのです。なぜなら、その設計図がまさに神様の御言葉であり、その御言葉を正しく理解し、用いるためには信仰がなければできないからです。きっと、それぞれの建てていく人生の家は人たちがみんな普通にそこがそのようにうわべは見えるかも知れませんが、神様のその中が全然違うことをみなさんは日々経験していませんか。

＜賢い人と愚かな人が建てた二つの家の違い＞

それでは、この皮相的(ひそうてき:うわべだけの)共通点に対していったい違うところは何でしたか。もっと本質的なことなので。イエス様は結局今日の本文のたとえ話の話を通してその違いを強調し、教えて下さろうとされたことがわかります。

始め、イエス様はこの二つの家を建てる過程にかかった努力の違いについてまず強調されました。

砂の上に建てられた家は岩の上に建てられた家と比べると、全然楽にそれとも早く建てれたと思います。しかし、岩の上に建てて置いたその家は基礎を形成する工事でどれほどの苦勞と、汗をかいて、努力したのでしょうか。どれほどの多くの時間がかかってついにその家を建てたのでしょうか。

おそらく、岩の上に建てようとしていたその家の基礎を建てるうちに砂の上に建てた家はすでに家の形をほとんど建てて、完成をすぐ目前にしていたかも知れません。そうしながら、岩の上に家を建てようとして努力している人たちの姿を見て、あざ笑いながら、かえって“お前たちはね、本当に愚かな者じゃないか。非効率的じゃないのかよ”とさげすんだかも知れません。こんな忙しい時代、スピードの時代にいつまで基礎ばかりに建てようとしてそんな長く、貴重な時間費やすつもりかとまるで自分たちが賢くて、岩の上に家を立とうとする人たちはまさに愚かな阿呆みたいに扱われたかも知れません。当然その姿を見ている、

世間の人たちもみんなそう思ったはずですが。

ところが、愛する兄弟、姉妹のみなさん、イエス様は最後に認めて下さる家、その真の家は堅固(けんご)な基礎の上で建てられた家のみ、可能だとはっきりと教えて下さっています。愛するみなさん！私たちはどうですか。各自自身を振り返って見ましょう。みなさんはこの信仰の基礎と土台を立てるのにどれほどの多くの努力と苦労をされましたか。

今日の本文には岩の上に建てられた家にかかったエネルギーについての描写(びょうしゃ)はありません。しかし、今日の同じ御言葉の内容が書かれているルカの福音書を読んで見ると、今日の本文の表現とはちょっと違って書かれていることが分かります。

“その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。”(ルカの福音書6章48節)

ルカの福音書ではただ岩の上に建てたのではなく、何が強調されていますか。

“地面を深く掘り下げ、”だと強調されているでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今まで信仰の真の基礎、揺るがない信仰の土台を丈夫に建てるためにみなさんはどれほどの時間をささげ、学ぼうと、努力しようとやって来ていますか。基礎をもっと建てる必要があるのに、忙しくて、疲れて、大変で、つまらなくて道中諦めたことはなかったでしょうか。もう自分の信仰の基礎と土台はしっかりできていて自身をもっていますか。もう一度謙遜に自分の信仰の基礎と土台を強く建てる時ではないでしょうか。

歳月が流されていけば、礼拝をささげるやり方も知っているし、賛美も歌えるし、祈ることもできるようになるかも知れません。

奉仕もやっているかも知れません。それでも自分は十分できた信仰を建てたと思っはいませんか。

これが今日の本文を通してイエス様が私たちに語って下さっている大切な質問なんです。

二つ目の賢い人の家と愚かな人の家の違いは試練に耐えられるかどうかのことでした。

本文25節を読んで見ると、洪水が押し寄せて来ます。そして、突風のような強いがその家に打ちつけます。ついに二つの家はめっきり違差が表されます。砂の上に建てられた家はすぐ倒れてしまいました。

ここで大雨、洪水、嵐は何にを念頭にしてイエス様がおっしゃったと思いますか。

そうです！それは人生の逆境であり、試練なんです。自分の信仰、今自分が持っていて、建てて行っている信仰が正しいのか、間違っているのではないのか、自分の信仰のテストは人生の試練の前で、人生の逆境の時どうかを見るとよく分かるようになるでしょう。クリスチャンプレイズチャーチの愛する信仰の家族のみなさん！

みなさんは今まで、様々な逆境に直面した時、みなさんの反応はどうでしたか。

人との関係の嵐に見舞われた時、経済的な風雨や自分の人生を揺らす突風のような事件などの前でみなさんが持っていた信仰の役割はどうでしたか。

激しい嵐の中でも揺るがないで堅固(けんご)に、丈夫に立てられている信仰、この激しい嵐にもかかわらず、神様を信頼し続けて、賛美と祈りを持って主を見上げ続けられる信仰でしたか。

自分には何の力もないことを認め、主の御前でへりくだってより頼んだ信仰によって堂堂と忍びながら、乗り越えて行く信仰を抱いているのかという質問を本文の御言葉はしています。

みなさん、仕事の中で宝石鑑別(かんべつ)士という職業があるでしょう。特にダイヤモンドの鑑別士たちは本物のダイヤか偽物がを分別する時、このようにまず簡単にやってみれば分かるようです。ダイヤを水の中に入れて見ると、その瞬間偽ダイヤは水に入れる前はつやつやと光っていたものが水の中に入るとすぐその光を失うようです。しかし、本物のダイヤは水に入れなくても、水の中に入れても関係なくダイヤの光が輝いているようです。

試練の中でも、逆境の中でもその光を輝ける信仰、自分の生存を脅かす雨雲が覆って来ても、恐ろしい嵐が襲っても揺るがずに、堅固に信仰の光を輝ける信仰、今みなさんの信仰はその姿で建てられて行ってますか。

それとも、少し大変なことが起こると、すぐ信仰はどこに行っちゃったのか見えず、まったく信仰がない人々と同じ反応を見せて来た自分の姿はなかったのでしょうか。みなさんの信仰の基礎は本当に丈夫ですか。もう一度今まで自分の信仰の基礎が本当に岩の上に深く掘り下げているのかどうか点検する必要があります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの兄弟、姉妹のみなさん！そうです。砂の上に建てた人の家と岩の上に建てた家の根本的な差といえば、それは基礎、土台の差でありました。だから、この基礎ってどれほど重要な物ですか。時間が経っても自分の信仰を基礎と土台を深く、しっかり建てる人が主にほめられる賢い者であることを共に覚えてみましょう。

みなさんは、東京の帝国ホテルをみなさんは御存知ですか。今は東京のインペリアルホテルの全身でありながら、感謝なのは明治時代のそのホテルの実際の中央玄関部が近くの明治村にいつも展示されるいます。このホテルは 20世紀建築界の巨匠、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライト(Frank Lloyd Wright)によって設計され、4年間の大工事の後に完成されたのが東京の帝国ホテルでした。ところが、このホテルを建てた4年間うち、実はこのホテルの基礎工事をするのに、ほぼ2年間かかったそうです。それで、同時の回りからはいろんな非難の対象になっていました。どうして、あんなに多くの時間やお金を投資して基礎工事するだけで費やすのか建築家フランクに任せたのは愚かで、大失敗みたいに扱われたそうです。

結局まる2年基礎工事で、残り2年で他のすべてを建てあげてこのホテルは1923年完成されました。完成されてからもこの帝国ホテルは無駄なお金が多くかかって建てられた体表的なケースの建物に見なされたそうです。ところが、このホテルが建てられてから年に関東大地震が起きました。周辺の多くの建物が倒壊したり火災に見舞われる中で、小規模な損傷はあったもの

のほとんど無傷で変わらぬ勇姿(ゆうし)を見せていたのがこの帝国ホテルでした。その以後は人々は代わり世間に注目され、ライトという名前も日本建築界には神話のように伝わるようになったのです。基礎がどれほど大事であるか、帝国ホテルは私たちによく証明してくれています。

〈岩の上に建てられた家の基礎は一体何でしょうか。〉

みなさん、結論的に、今日一番大切な質問はこれです。そしたら、いったい岩の上に建てられた賢い人の家のその基礎は何なのか。という質問じゃありませんか。その基礎を建てるというのはどういう意味何でしょうか。

24節を共に読んで見ましょう。

“だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができません。”

この箇所で強調されている動詞二つは、イエス様の御言葉を“聞いて行なう”ということです。そして、この二つの単語の中でもっと強調されていることが御言葉を聞いて御言葉通り行なうこと、御言葉通りに実践する、生きることなのです。神の御言葉、この聖書の御言葉を聞いたり、読んだり、学んだりして、信仰の核心(かくしん)を持ってその御言葉通りに従って日々生活することが自分の人生の家を堅固に、丈夫に建てるためのその基礎と土台となるわけです。

今日クリスチャンプレイズチャーチのみなさんの自分の信仰の基礎は深く、しっかりしていますか。丈夫な、堅固な土台になっていますか。弱くてひびがはいってはいませんか。建物よりその信仰を基礎、土台を立て直す必要はありませんか。それは決して恥ずかしいことではありません。かえって教会に通ったのが、イエス様を信じていたのは長いのもかかわらず、嵐が、洪水が来るたびに激しく動揺され、倒れてしまうのが問題なのです。

もう今年2013年は改めて自分の信仰の基礎と土台をすべてを知っておられ、見ておられる主の御前で点検し、強く、しっかりして進む年となりますように切に祈ります。

“わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人だ。”

今日の御言葉は聖書をどれぐらい知っているかではなく、どれほど御ことば通りに従って、行なっているかが大切であることを学びました。それがみなさんの信仰の基礎がどうであるかを左右します。その信仰の基礎、土台がどうであるかによってまずは、今年一年、建てようとするみなさんの人生の家がどうなるかが左右されます。

回りからどう見られても、どういわれても、いくら時間がかかっても黙々と神の御言葉による信仰行いの岩の上に美しくみなさんの人生の家を建てていけるように心から祈ります。

御言葉を読み、ちゃんと学んでその通りに行なうことを改めて決心しましょう。まだ全然遅くありません。

今年、そして残されているみなさんの人生の家が揺るがず、動揺もせず、堅固であって、さらに美しく建てられて行くcpcの全の神の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祝福します。

生きておられる神様の御前でみんな御言葉の岩の上に強く立った賢い信仰の建築者たちとなりますように御名によって祝福します。アーメン！

【祈りましょう！】

“主よ。今年も御言葉と信仰の行いの岩の上にしっかり建たせて下さい！今年も我が人生が、我が家庭が、われらの教会が、わが国が、我が民族が様々な逆境や試練が襲って来ても揺るがず忍びながら乗り越えて進むことができるように。”

どんな試練があってもイエスキリストを信じる信仰と力強い主の御言葉のゆえに堂堂と生きることができるように、イエスキリストのため自分にいくら苦しみが来ても卑怯的にならず、妥協せず、神様の前で正直であり、信仰の純潔を守りつつ生きることができるように主よ、助けて下さい。御言葉通りに歩まれ、どんな年よりも信仰の土台が強くなられた一年となるように導いて下さい。美しい人生の家を建てることのできる賢い建築家となれるように祝福して下さい。主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！